

全校の皆さん、おはようございます。

今日から毎週金曜日この時間に、朝の法話をお送りします。瞑想の姿勢で、心を落ち着けて、聞こえてくる法話の言葉に耳を傾けてください。

さて、新しい年度が始まりもうすぐ二週間を迎えますが、今皆さんはどのような気持ちでこの時間を迎えているでしょうか。それぞれに、いろんな思いがあるかと思いますが、心機一転、新鮮な気持ちでのスタートが切れていれば、少しずつ成長している自分に気づけるのではないのでしょうか。今の気持ちを大切に、充実感に満ちた学校生活にしてください。

ところで、皆さんは何故、伊那西高校に「宗教・仏教」の授業があるのか知っていますか。多くの人は「宗教・仏教を学ぶ」ため、と思うかもしれませんが、しかし、ほんとうのところは、「宗教・仏教を学ぶ」ためではなく、「宗教・仏教に学ぶ」ために授業があるのです。

では、いったい何を学ぶのでしょうか。私たちと同じ真宗大谷派の関連学校に長らくお勤めになった真城義磨（ましろ よしまろ）先生という方は、高校での学びは「何かを付け足す学び」と「何かを付け足す前の学び」があるとおっしゃいました。

皆さんが小学校や中学校で学んでこられた歩みを振り返ってみると、「何かを付け足す学び」が多かったのではないのでしょうか。例えば、高校生になれたことも、今まで得た知識や数々の経験があったからでしょう。しかし、「宗教・仏教に学ぶ」ということは、「何かを付け足す学び」ではなく、「何かを付け足す前の学び」のことをさします。すなわちそれは「自分について学ぶ」ことです。

「自分について学ぶ」とは、樹（き）に譬（たと）えると、根っこにあたります。根がしっかりしていないと、幹も葉も花も果実も、満足に育ちません。だから皆さんには高校生活を通して「根を張る」すなわち「自分について学ぶ」ことが大切になってくるのです。

しかし、「自分について学ぶ」ことは、楽しいというよりかは、むしろ辛く苦しいことかもしれません。何故ならば見たくもなかった自分、認めたくない本当の自分と出会うことになるからです。ところが、「自分について学ぶ」ことで、ようやく自分のことを認められ、他の誰でもない自分であることを喜んで生きることできたと、この学校を卒業した先輩たちは話していました。

皆さんにとって、毎週聞こえてくるこの法話が「自分について学ぶ」きっかけになれば願います。